

イチゴ「とよのか」の花芽分化促進のための低温処理育苗

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜栽培・特産部 八代研究室

研究のねらい

花芽分化期を安定的に早進化し、出荷を11月から行ない、年内収量を高位に安定化することは、イチゴの経営ではたいへん重要である。しかし、低温処理育苗は、出入庫のための労力、昼間の高温による花芽分化の抑制などの問題がある。

そこで、安定的に花芽分化を早進化し、労力軽減につながる低温処理育苗法を開発する。

研究の成果

1. 花芽分化の早進化を図るための育苗法として、低温暗黒処理、夜冷短日処理、昼冷短日処理、及びこれらの組み合わせによる方法がある。
2. 低温暗黒処理は処理温度を15℃以下とし、15～20日間の処理を実施する。この場合、充実した苗を使用することが必要条件となる。
3. 夜冷短日処理は暗期の温度を10～20℃とし、日長時間は10時間以下、処理期間は14～21日間で処理する。この場合、暗期の温度は低いほうがよく、上限温度は20℃であり、明期の高温は花芽分化に抑制的に働き、25℃以上では高温ほどマイナス効果が大きくなる。これに使用する苗は処理開始15～20日前に最終追肥を行なう。
4. 昼冷短日処理は地下水利用熱交換機を利用し、日長10時間で行う。この場合、花芽分化の斉一性がやや低い欠点があるが、処理期間中も苗の充実が進行する利点がある。
5. 夜冷短日と低温暗黒を組合せると、更に花芽分化促進効果は安定的に実現する。この場合、低温暗黒1週間+夜冷短日1週間の処理、または、低温暗黒3日間+処理中断5日間+低温暗黒3日間+夜冷短日5日間の処理を行なう。それぞれの処理内容は単用の場合と同じである。

